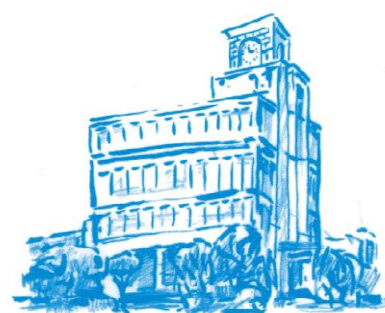




学級経営の充実

伊丹市立総合教育センター
所長 永嶺 香織

2学期が始まりました。夏休み明けは子どもたちにストレスがたまりやすい時期です。「新型コロナ」は一向に収束の兆しが見えませんし、仲間との生活に不安を覚える子もいます。このような時こそ、子どもたちにとって学級が居場所となるような「学級づくり」を進めなければなりません。



学級経営を行う上で最も重要なことは、学級の児童生徒一人ひとりの実態を把握することです。日頃のきめ細かい観察を基本に、児童生徒の気持ちを理解し、愛情を持って接していくことです。この姿勢は、どのように時代や社会が変化しようと、決して変わらない不易的なものです。

子どもたちは、グローバル化や人口減少・少子化、デジタル化が急速に進展し、「新型コロナ」に象徴されるように先行き不透明で予測困難な時代を生きていかなければなりません。学習指導要領では、このような時代に対応するために、「一人ひとりの児童生徒が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会変化を乗り越え豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにする」ことが求められています。

このような資質の育成は、「主体的・対話的で深い学び」や「個別最適な学び」、「協働的な学び」の実践が不可欠ですが、これらの学びを展開する基盤となるのが「学級集団」です。一人ひとりが意欲を持って学びに向かうことを認め合い、わからない仲間をほっておかない協働できる学級集団が、このような学びを実現するのです。学級経営は、子どもの成長や学力の形成に大きな影響を与えると言っても過言ではありません。学級担任は、一人ひとりの子どもが尊重され、包摂される空間づくりに努めることが何より大切です。

子ども達が安心して過ごし、 高め合う学級づくりのために



予測困難な時代にあって、学校教育には、子どもたちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められている。
(学習指導要領 改訂の経緯及び基本方針 より)

自治が生まれる **学** 級づくり



学級は子ども達が安心して過ごし、
高め合う場所
子ども1人ひとりが尊重され、
包摂される空間づくりが重要

クラスの「心地よさ」を大事にする
子どもを「ルール」で縛るのではなく、話し合っ
て合意・改善するプロセスが必要

「こうした方が心地よい」という信念体系に基づく指導が重要
○どう行動すれば授業を受けやすいか、学級生活を
過ごしやすいかを子どもに考えさせる

「排除の論理」から「包摂の論理」へ

「インクルーシブ・コミュニティ（様々な子ども1人ひとりが尊重され、包摂される民主的なコミュニティ）」をつくる

「できない子」に配慮して、「できること」を計画的に増やしていく

学年あるいは学校全体で共有することが重要

自己と他者の人格を尊重しない言動や発言は毅然と**指導**する

※毅然とした態度での指導は、「怖さ」を基盤にした指導ではない
他者を「敵」ではなく、「共に歩む大切な仲間」「互いに助け合う仲間」だと意味づけられた学級を目指す

信頼される **教** 師像



教師は**子どもの幸せ**を願い、
子ども達に幸せを築ける力を養う

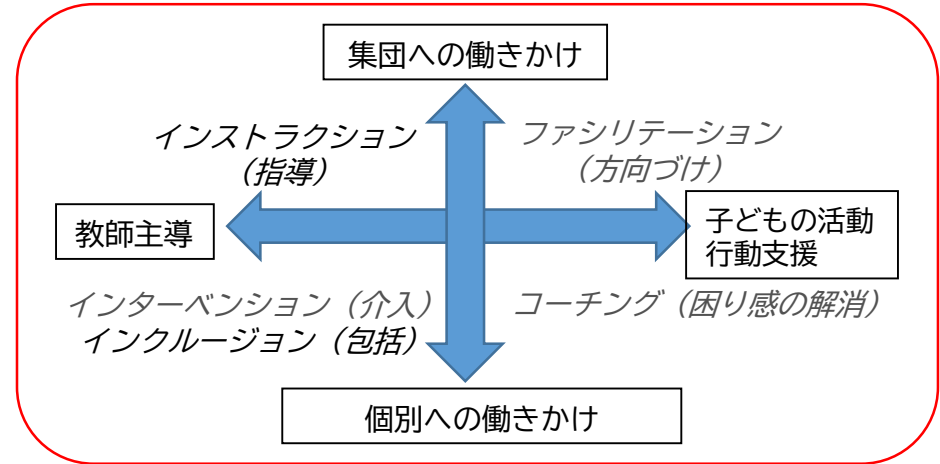
教師の**生き方、考え方、非認知能力**がそのまま、鏡のように子どもに伝わる

○教師の子どもに対する「思い込みのレッテル」は、子ども達に大きな影響を与えることを意識する

○子ども達に「自分のことは自分でできるようにする」ためには、教師が代わりにやってあげてやめる

※ただし、子どもを放置、突き放すものではなく、**見守り**、助けを求めてきたら**助言**する

場面に応じた**柔軟な指導スタイル**を選ぶ



【出典】「学級経営42のこと」「学級経営の教科書」より

学級で育みたい **子** どもの姿



成功体験によってつくられた
「情動を伴う記憶」
が自己イメージを高める

子どもへのはたらきかけ
自分には**すばらしい力**があり、努力すれば高い目標も達成できる

子どもが「安心して取り組める見通し」を持たせるために「スモールステップ」と「取り組みやすい方法」を、教師が子どもと一緒に考える

※教師は指導や助言を続け、励ましながら目標達成を手伝う
(子ども達の頑張りを担任が褒めるだけでなく、**友だち**に褒めてもらうことや担任以外の教師に褒めてもらうことは非常に有効)

まわりの人や家族、地域、社会に**貢献**することは価値がある

子どもに望ましい行動の仕方を具体的な場面で教える

自分の行動は、自分の責任のもとに、**自分で決めていく**ことが大切である

子どもには、1年後の自分は**どうありたいか**を考えさせる

子ども達が、意識することで見えてくる自分自身に対して気付いた「**自分のよさ**」を、自分に語る場を設定する

「**考え方をよりよいものに変える**」ことが、未来の「**子どもの姿**」を見据えた**主な手立て**

夏季研修報告



研修会名	所属	講師	講演内容
英語教育実践講座①	関西大学 教授	竹内 理 氏	指導と評価の一体化 ～ルーブリックを用いた評価方法についての理論と演習～
受講者の感想	パフォーマンステストを実施するまでに、きちんと授業に計画性を持った上で、積み上げていく必要があることを痛感した。		
生徒指導対応力向上研修①	兵庫教育大学大学院 教授	遠藤 裕乃 氏	不登校の理解と対応 ～システム論的家族療法の視点から～
受講者の感想	学校に登校しにくい子どもに対して、1つの原因を見つけようとするのではなく、様々な方面からその子の背景を見ていく必要があると感じた。		
人権教育研修会	宝塚大学 教授	日高 庸晴 氏	LGBTsの児童生徒の存在を認識した学校での取り組み
受講者の感想	周囲にたとえ1人でも理解し、寄り添い、受け入れてくれる大人、友人などがいるのといないのとでは、その子どもの人生は大きく変わると感じた。		
授業力向上講座①	京都女子大学 教授	水戸部 修治 氏	個別最適学びと協働的な学びの実現を目指す国語科の授業づくり ～ねらいに応じたICTの効果的な活用について～
受講者の感想	基本的な事例と学習指導要領を照らし合わせながらの講演だったので、子どもたちが授業の中で、どんな力をどのようにつけていけないといけないかを改めて確かめることができた。		
キャリア教育研修会	追手門学院大学 教授	三川 俊樹 氏	キャリアパスポートの活用とキャリア・カウンセリング
受講者の感想	「キャリア」とか、「カウンセリング」ということについて難しく考えすぎていた。また、「進路指導」＝「受験」というイメージだったが、小学校で、目の前の子ども達の発達や生き方についての声かけだと気付くことができた。		
プログラミング教育研修会	関西大学 教授	小柳 和喜雄 氏	プログラミング教育の重要性
受講者の感想	プログラミング的思考は、身近なものに置き換えて考えられることに気づかされた。論理的思考を育成する学習に繋がるので、2学期にやってみようと思う。		
特別支援教育研修①	大阪大谷大学 教授	小田 浩伸 氏	こんなとき、どうしたらいい? ～子どもが学ぶソーシャルスキル～
受講者の感想	子ども同士でのつなぎ言葉や、教師のなるべく肯定的な言葉かけを具体的に知ることができ、それを日々の実践で生かし、子どもが安心できる集団作りができるよう心がけていきたいと考える。		
道徳教育実践講座①	四天王寺大学 教授	杉中 康平 氏	道徳教育について ～道徳の時間の対話を通して子ども達に考えさせたいこと～
受講者の感想	どうやって生徒がじっくりと意見を出し合い、気づきを得られるような授業をつくったらよいか困っていたが今日の研修で多くの実践につながられるヒントをいただくことができた。		
生徒指導対応力向上研修②	一般社団法人もふもふ ネット代表理事	藤岡 淳子 氏	性暴力の理解と対応
受講者の感想	性的加害は性衝動による突発的な事案というように思っていたが、加害に至るまでには様々な犯行過程があり、「たまたま」起きるものではないこと、性的加害を防ぐために「外的バリア」を高くする必要があるということ等を学べた。		
特別支援教育研修②	桃山学院大学、 大阪成蹊大学 講師	石塚 謙二 氏	授業のユニバーサルデザイン ～どの子ども分かる授業をめざして～
受講者の感想	ユニバーサルデザイン教育において、焦点化、視覚化、共有化するという大きな柱を三つ教えていただけ、学校でもそれらを生かして授業づくりをしていかなければいけないと思った。		
授業力向上講座②	大阪大谷大学 教授	今宮 信吾 氏	児童生徒が主体的に参加する学級づくり ～明日も学校へ行ってみようという子どもたち～
受講者の感想	高学年を担任していて、クラスづくりに悩む日々だ。つい自分が前に出てしまい、また子どももそれを待っているような雰囲気だ。が、「学級力」について、子どもと一緒に考えていきたいと思った。子ども同士で高め合うための力はあるはずなので、子どもたちを信じ、自分は裏からサポートするという形を2学期からは少しずつとっていききたい。		
英語教育実践講座②	平安女学院大学 教授	中西 浩一 氏	外国語教育の『小中接続』で大切にしたいこと
受講者の感想	「思考・判断・表現」のテスト作りに特に悩んでいたが、改めて、目的・場面・状況設定の必要性を知った。そして、具体的なテストの例を教えていただいたので、大変分かりやすかった。また、中学校の先生にも日頃疑問に思っていたことをたずねることができ、中学校の様子もよく分かった。		
道徳教育実践講座②	畿央大学大学院 教授	島 恒生 氏	「特別の教科 道徳」の授業の進め方と工夫
受講者の感想	自分が道徳の授業をする際に、考えのヒントになるような事と思って、投げかけている発問も、生徒にとって考える場を減らしてしまっていたり、気づきを奪い取ってしまっていたりする可能性があり、今後気をつけなければならないと感じた。		
授業力向上講座③	岐阜聖徳学園大学 教授	玉置 崇 氏	主体的・対話的で深い学びを生み出す算数・数学科授業づくり ～ICT活用も踏まえて～
受講者の感想	子ども同士をつなぐ働きかけを意識して実践したいと思った。一方的に説明してしまったり、教師が話している時間がつい長くなってしまったりするので、「出力」すること、「自己選択」させることをやっていきたい。		
授業力向上講座④	神戸大学 教授	岡部 恭幸 氏	一人ひとりの児童の数学的な見方・考え方の成長を目指す授業
受講者の感想	子どもの思考の流れ、見方・考え方の成長の道すがら整理された。まず、子どもが何につまづいているのかをしっかりと見取って、導いてあげること、系統性を意識してその単元で付けなければいけない見方・考え方を理解しておくことに気を付けて授業をしていきたい。		
情報教育研修会	園田学園女子大学 教授	堀田 博史 氏	情報セキュリティ・モラルを意識した1人1台情報端末の活用
受講者の感想	情報セキュリティやモラルの現状や大切なことを、詳しく知ることができた。学校内でのタブレット端末活用の限界と学校外での活用の可能性について、自分自身でも深めていきたい。		

夏季研修講座にたくさんご参加いただきました。密を回避するためオンライン参加、ペアやグループ討議でのパーティション使用等、ご協力をいただきましてありがとうございました。
中には参加しなかったけれども、できなかったという声を聞いております。
そのような先生方のために、センター4階で各研修の記録を視聴できるようにいたします。希望される方は、事前にセンターまでご連絡いただき、お越しください。

発行 伊丹市立総合教育センター
所在地 〒664-0898 伊丹市千僧1丁目1番
TEL 072-780-2480
FAX 072-780-2482
開館日 月・火・木・金 : 9:00～21:00
水・土 : 9:00～17:00
休館日 日曜・祝日、年末・年始
総合教育センターHP <http://www.itami.ed.jp/>

<教育相談>
電話 072-772-6171 (電話相談)
072-780-2484 (来所相談)
お子様に関する様々な悩みや課題、
問題等の相談に応じています。
(来所・電話相談)
月・火・木・金 : 9:00～18:00
水・土 : 9:00～17:00

こまったことがあったらすぐ相談
兵庫県教育委員会
ひょうごっ子SNS悩み相談
LINEを使って利用できます

